

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 27日

静岡県知事

川勝 平太 殿

提出者

住 所 静岡県 磐田市 新貝2500番地

氏 名 ヤマハ発動機株式会社

代表取締役 日高 祥博

電話番号 0538-37-4194

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ヤマハ発動機(株) 磐田南工場
事業場の所在地	静岡県 磐田市天竜800番地
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	輸送用機械器具製造業
② 事業の規模	製造品出荷額 7,054百万円
③ 従業員数	890名（正規社員、嘱託職員、期間社員、派遣社員 ※請負職場除く）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	添付資料 廃棄物処理フロー（図1～5）

（日本産業規格 A列4番）

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

※別紙1を参照

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		別紙の通り（別紙2）	
	産業廃棄物の種類			
	排出量		t	t
	（これまでに実施した取組） ・ 鋳物砂の発生抑制 ・ 離型剤廃液削減→少量スプレー化により廃液削減 ・ 木くずの有価化 ・ 廃液の、遠心分離、CDドライヤーによる、発生量削減 ・ 中子の中空化による鋳造砂発生量削減 ・ 塩ビ手袋のマテリアルリサイクル(有価売却)			
②計画	【目標】		別紙の通り（別紙2）	
	産業廃棄物の種類			
	排出量		t	t
	（今後実施する予定の取組） ・ 鋳物砂の発生抑制(無機中子による砂の社内再生) ・ 水溶性クーラントの寿命延長 ・ 廃棄物分別教育による、意識の高揚及び分別精度向上(有価物化の推進) ・ 有価物化継続(金属類、木くず、ゴム手、保護具、電気雑品等) ・ 汚泥のCDドライヤーによる発生量削減 ・ 雑芥の一部一般廃棄物化			

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 金属類の分別有価化      ・OA機器、小型電化製品等の有価売却 ・ 燃えるごみをRPFプラへ分別      安全保護具(ゴム手袋)の買い取り業者への引き取り
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 木くずやその他廃棄物の教育等の継続      ・燃えるごみのRPFプラ分別継続 ・ 工場内ゴミ箱のパトロール      ・雑芥を一般廃棄物へ分別

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t
	実績なし	
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t
	実績なし	
(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油（離型剤廃液）	汚泥（脱水スラッジ、脱臭塔濃縮汚泥、処理場汚泥）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	776 t	275 t
	(これまでに実施した取組)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃油: CDドライヤーの濃縮蒸発による減量</li> <li>・汚泥: 脱水スラッジ→圧縮プレス式減量化</li> <li>・汚泥: 処理場汚泥→脱水機による減量化</li> <li>・汚泥: 脱臭塔汚泥→CDドライヤーの濃縮蒸発による減量</li> </ul>			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油（離型剤廃液）	汚泥（脱水スラッジ、脱臭塔濃縮汚泥、処理場汚泥）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	784 t	278 t
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚泥: CDドライヤーによる脱臭塔汚泥濃縮蒸発の横展開(対象脱臭塔の拡大)</li> </ul>			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（令和3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	実績なし
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	実績なし
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（令和3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙の通り（別紙2）
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(これまでに実施した取組)	
・処理方法変更によるリサイクル度の向上		
・廃棄物委託業者の現地確認による適正処理の確認		

②計画	<b>【目標】</b>	別紙の通り（別紙2）	
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・無機再生砂による廃砂の社内再生 ・脱臭塔汚泥の内部処理拡大による発生量削減		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

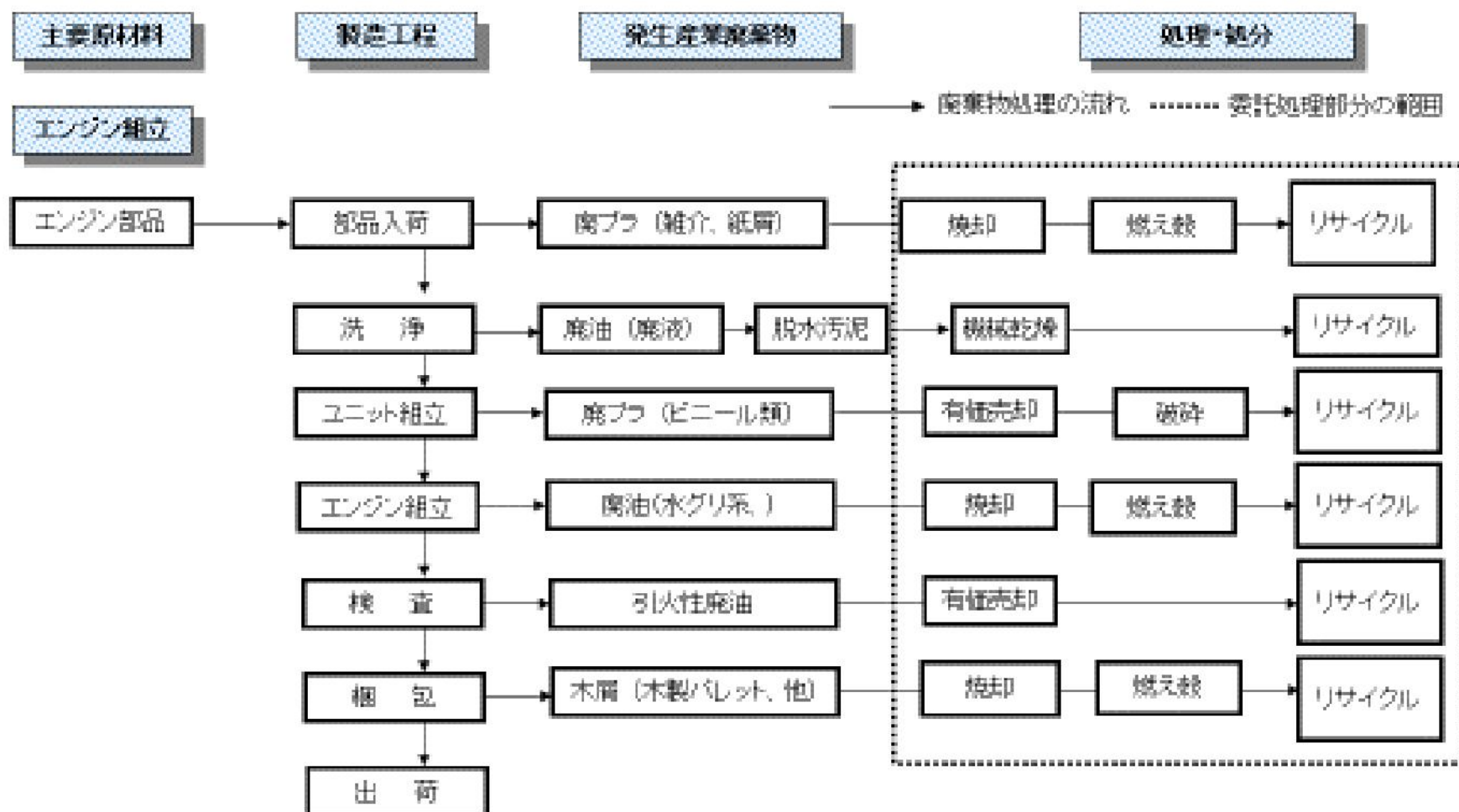


図1

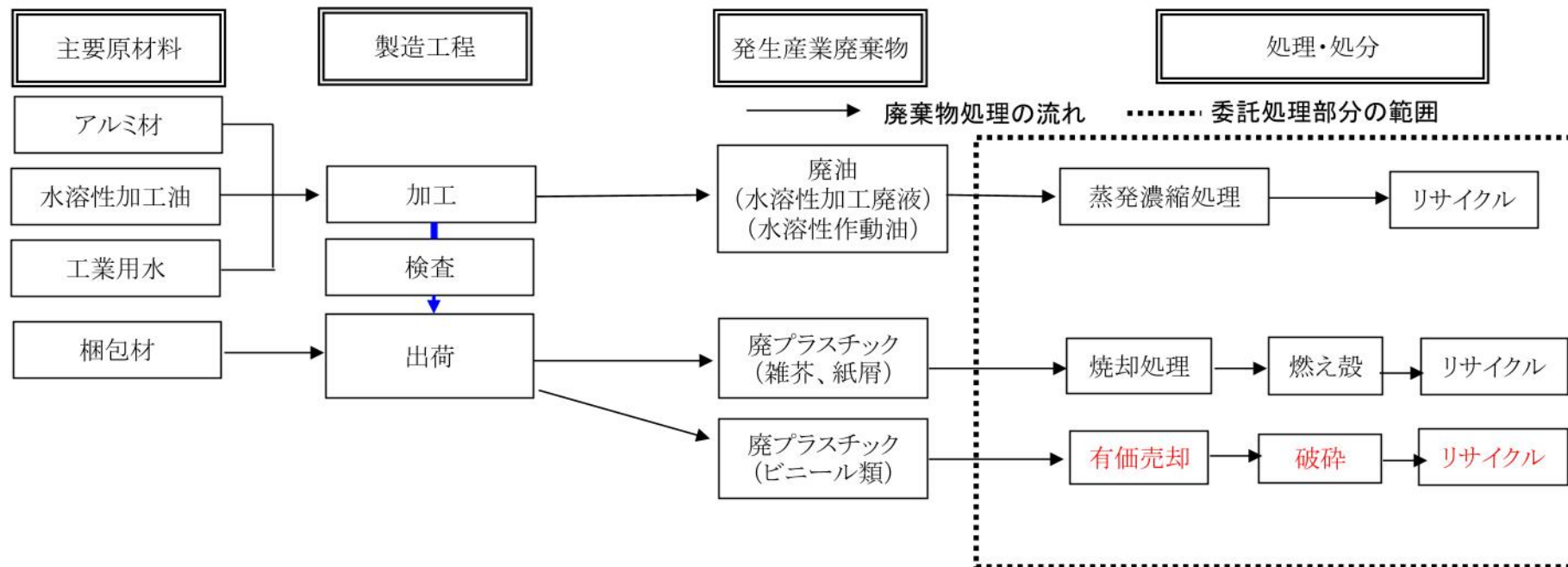


図2



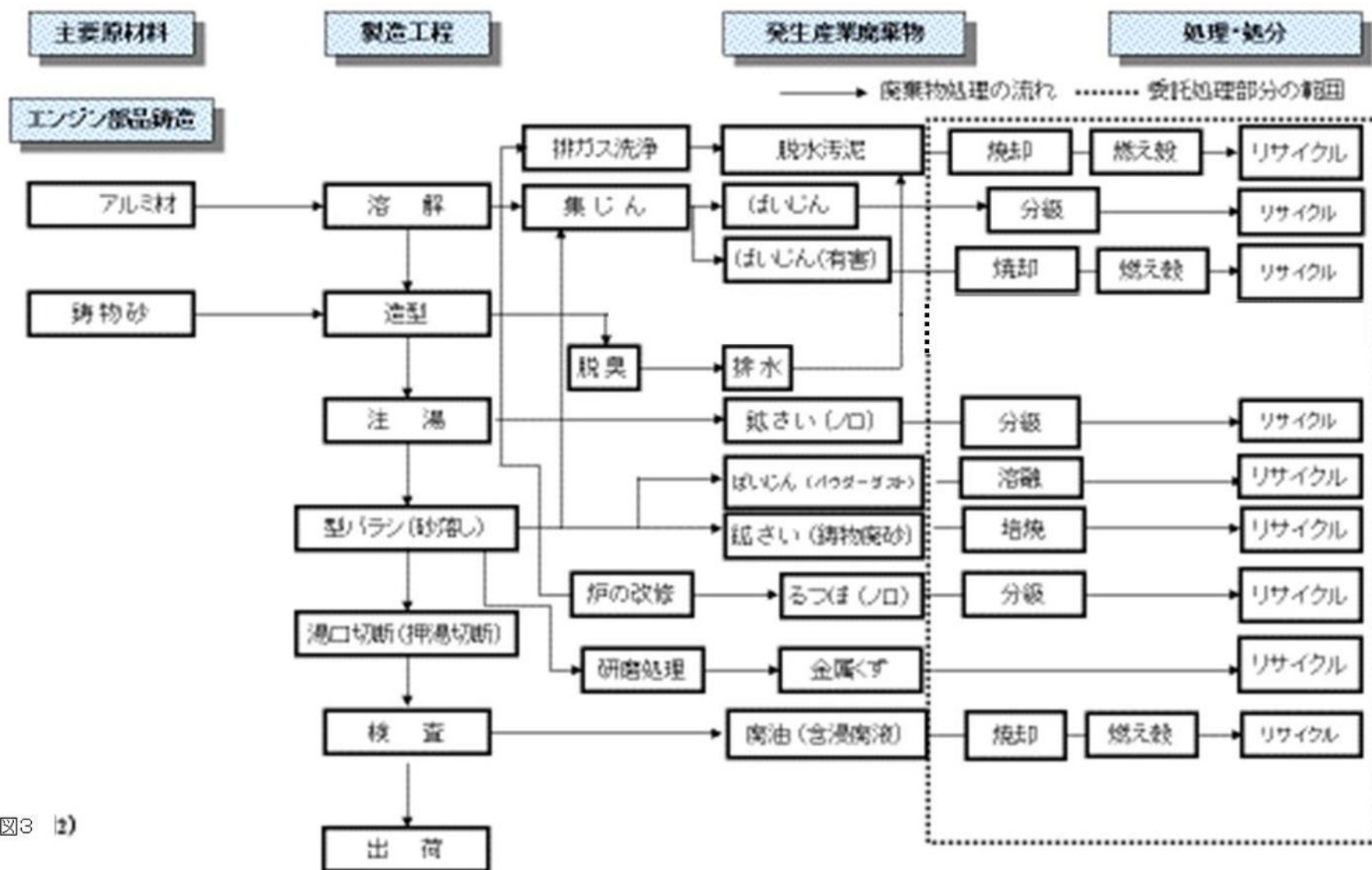
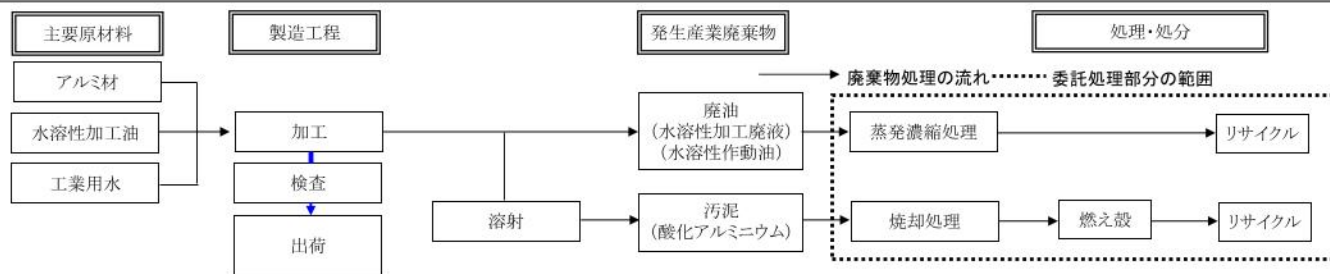
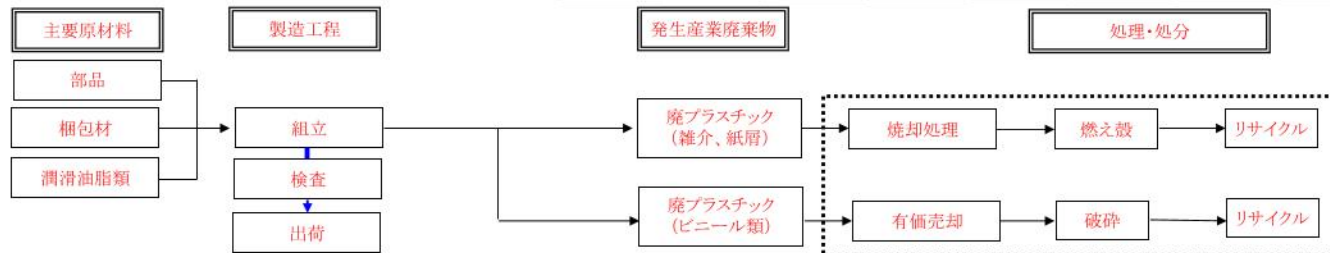


図3 2)



製造工程と産業廃棄物発生フローシート (組立工程)



製造工程と産業廃棄物発生フローシート (塗装工程)

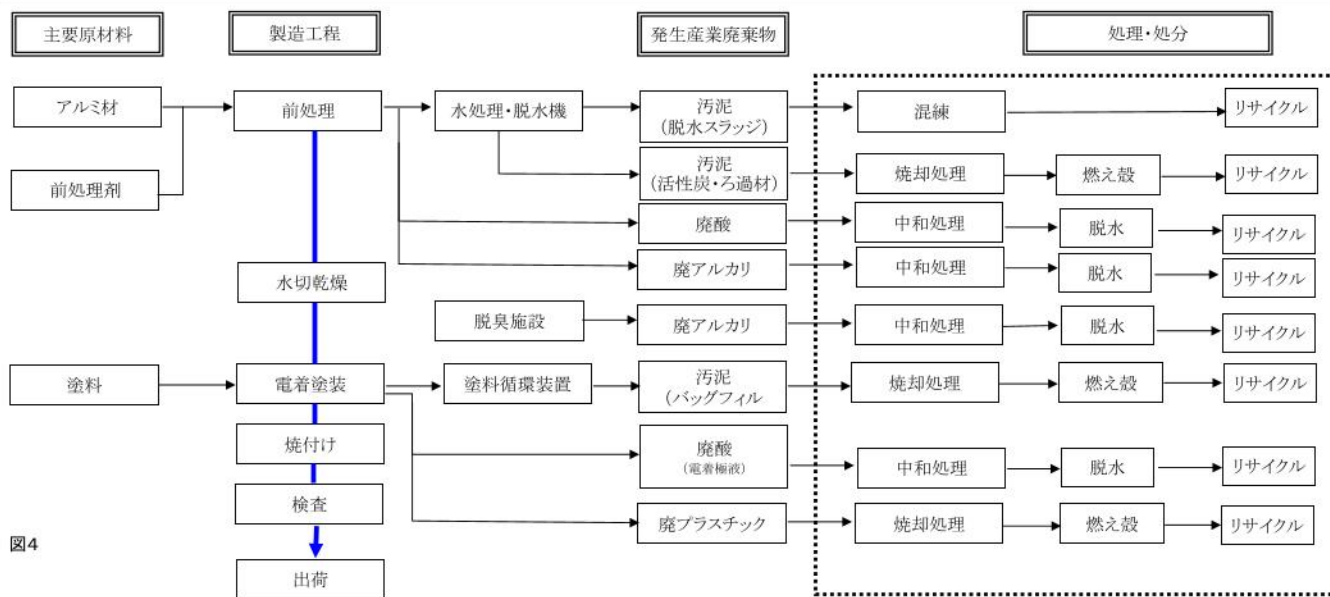


図4

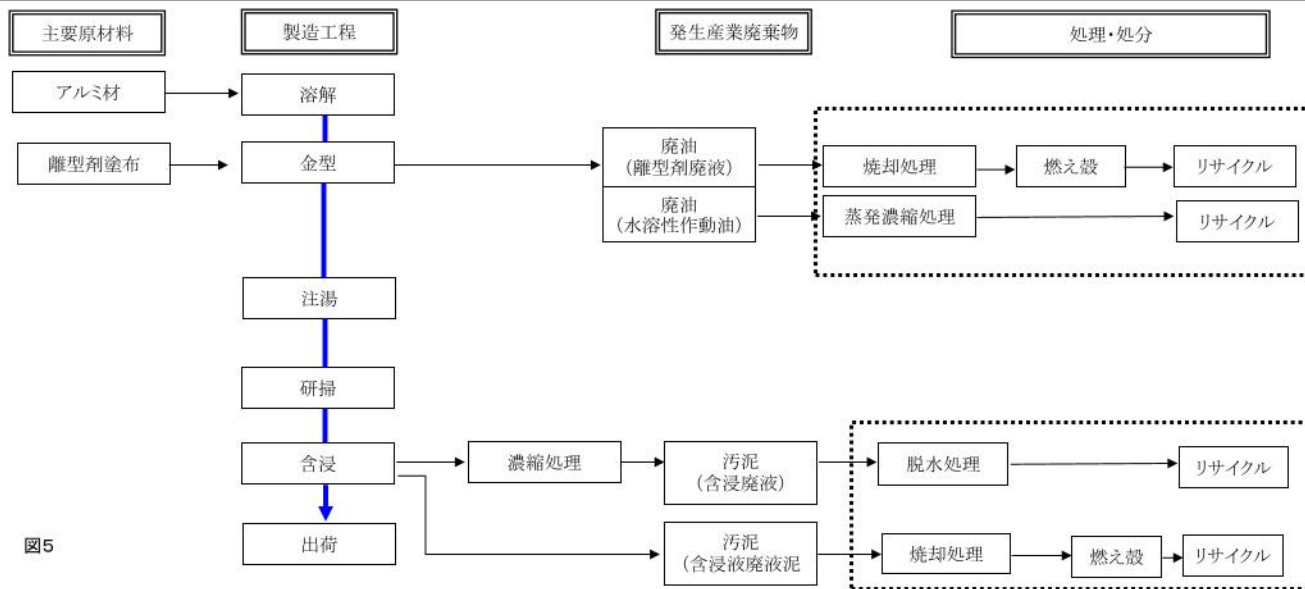
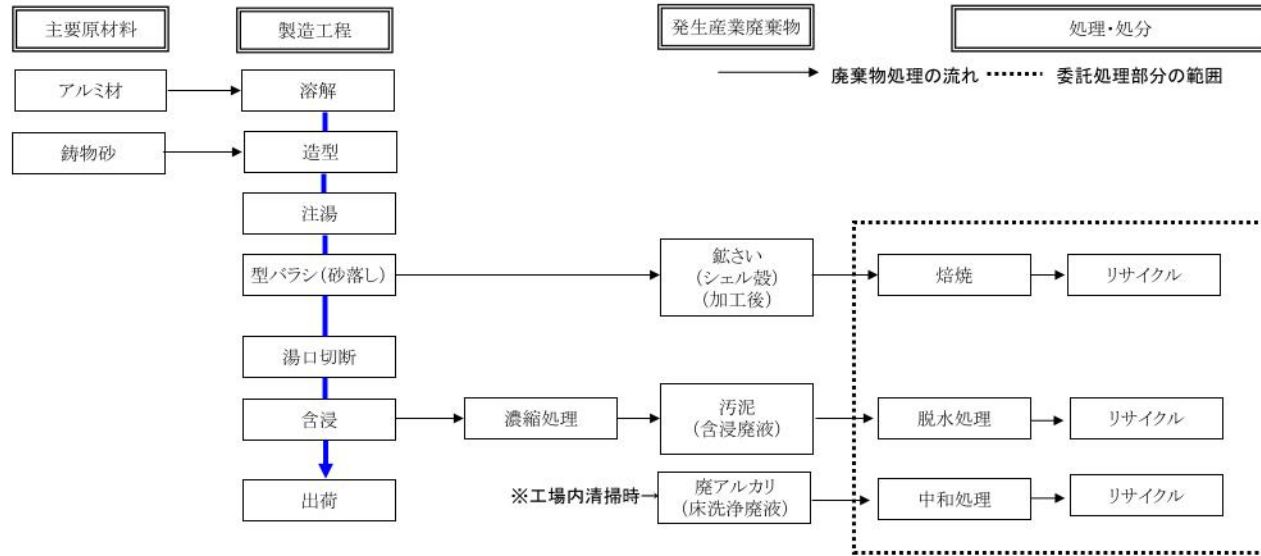


図5

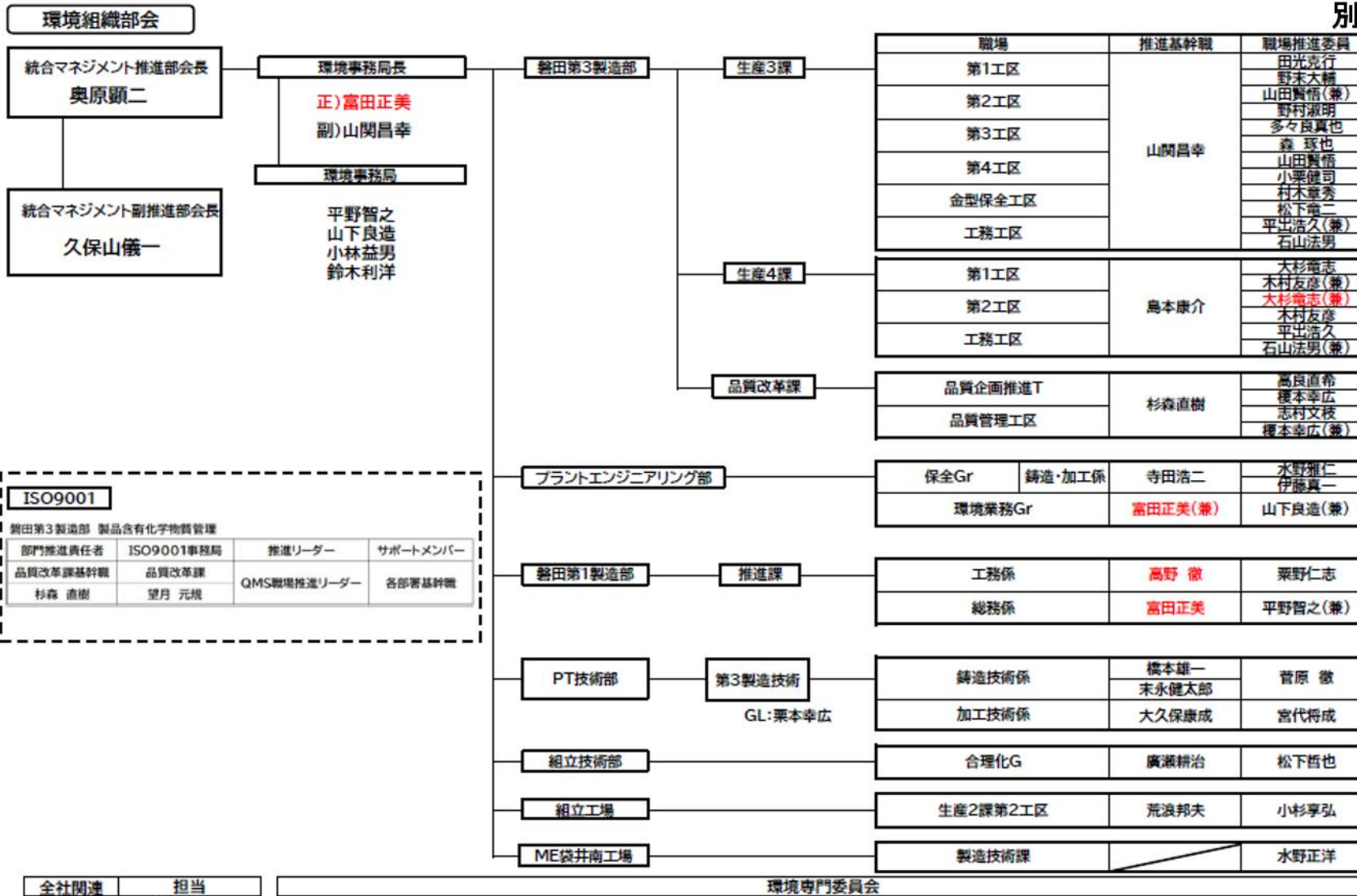
# 磐田南工場統合MS 環境組織体系図

※2022.2.01 製品含有化学物質管理の追加  
 ※2022.4.01 CO2削減委員会メンバー変更  
 ※2022.5.01 推進基幹職の変更  
 ※2022.7.01 事務局長、推進基幹職・委員、専門委員の変更

制定 2022年1月1日

承認 部長 奥原 隆	照査 事務局長 富田 正美	作成 事務局 平野 智之
2022/06/23	22/06/20	22/06/21

別紙1



省エネWG	鈴木 崇文
物流CO2WG	粟野 仁志
廃棄物WG	松下 武之
防災	平野 智之

委員会	委員長	副委員長	メンバー	環境業務Gr
CO2削減	山関 昌幸	山下 良造	中村慎哉 野末大輔 鈴木俊弘 沢田浩志 伊熊雄一 伊賀上高輔 木村友彦 三枝則和	鈴木 崇文
廃棄物削減	杉森 直樹	山下 良造	松下竜二 戸田裕和 鈴木厚士 伊熊雄一 木村友彦 松下亮太 粟野仁志 相羽日明 川合敏弘 山本淳一 鈴木一俊	松下 武之
臭気削減	栗本 幸広	大杉 竜志	野村淑明 内山恒 中村慎哉 小栗浩司 水野正洋 鈴木由裕 伊藤真一	山下 良造
有害物質削減	大久保 泰成	榎本 幸広	森 琢也 山本浩司 平野智之 松下嘉伸 太田智樹 伊藤真一 片桐秀太郎	外山 智浩
コミュニティ・エコ	高田 正美	鈴木 利洋	阿部孝幸 岩本守司 吉田陽一	

## 別紙2

### 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

No.	種類	R 3 年度実績値 (t)	R 4 年度目標値 (t)
1	鋳さい	3628	3592
2	汚泥 (脱水スラッジ、処理場汚泥、脱臭塔汚泥等)	381	377
3	廃プラスチック (木系、紙系、樹脂系、塗料付きウエス)	57	56
4	ばいじん (一般、パウダー)	5	5
5	廃油 (離型剤廃液、水溶性廃油)	374	371
6	廃酸 (電着極液、リン酸ジルコン、電着水洗液)	70	69
7	廃アルカリ	1	1
8	木くず (木製パレット、物流木箱)	2	2
9	がれき類	35	34
10	ガラス・陶磁器	1	1
計		4555	4510

### 産業廃棄物の処理の委託に関する事項 現状

No.	種類	R 3 年度排出量 (t)	R 3 年度全処理委託量 (t)	優良認定処理業者への処理委託量 (t)	認定熱回収業者への処理委託量 (t)	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 (t)
1	鋳さい	3,628	3,628	205	0	0
2	汚泥 (脱臭塔汚泥、脱水スラッジ、処理場汚泥等)	381	381	195	0	0
3	廃プラスチック (木系、紙系、樹脂系、塗料付きウエス)	57	57	57	0	0
4	ばいじん (一般、パウダー)	5	5	5	0	0
5	廃油 (離型剤廃液、水溶性廃油)	374	374	375	0	0
6	廃酸 (電着極液、リン酸ジルコン、電着水洗液)	70	70	70	0	0
7	廃アルカリ	1	1	1	0	0
8	木くず (木製パレット、物流木箱)	2	2	0	0	0
9	がれき類	35	35	35	0	0
10	ガラス・コンクリート及び陶磁器くず	1	1	1	0	0
計		4555	4555	945	0	0

### 産業廃棄物の処理の委託に関する事項 計画

No.	種類	R 4 年度排出量 (t)	R 4 年度全処理委託量 (t)	優良認定処理業者への処理委託量 (t)	認定熱回収業者への処理委託量 (t)	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 (t)
1	鋳さい	3592	3592	207	0	0
2	汚泥 (脱水スラッジ、処理場汚泥、脱臭塔汚泥等)	377	377	197	0	0
3	廃プラスチック (木系、紙系、樹脂系、塗料付きウエス)	56	56	58	0	0
4	ばいじん (一般、パウダー)	5	5	5	0	0
5	廃油 (離型剤廃液、水溶性廃油)	371	371	379	0	0
6	廃酸 (電着極液、リン酸ジルコン、電着水洗液)	69	69	71	0	0
7	廃アルカリ	1	1	1	0	0
8	木くず (木製パレット、物流木箱)	2	2	0	0	0
9	がれき類	34	34	35	0	0
10	ガラス・陶磁器	1	1	1	0	0
計		4510	4510	954	0	0